令和7年度第9回卒業証書授与式

卒業おめでとう

令和八年（二〇二六年）三月一日（日）、本校第一体育館にて定時制卒業式が執り行われました。十二名の生徒が晴れ晴れとした表情で卒業しました。

来賓祝辞

保護者代表挨拶

動画視聴

卒業生６名、担任、同窓会長様、校長、教頭、副担任、卒業生６名

卒業生入場

１２名の卒業生

開式

卒業生退場

答辞

送辞

校長式辞

卒業証書授与

岱志高校
定時制だより

令和７年度
第５号
編集・発行
熊本県立
岱志高等学校
定時制課程

自分らしく『前へ』

校長　杉原　由真

卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

人生はよく旅に例えられます。この四年間は、皆さん一人一人にとって、それぞれの思いを抱き、勇気を出して挑戦した旅路であったと思います。入学当初は、未体験のことが多く、不安や戸惑い、困難に直面する場面もあったことでしょう。それでも皆さんは、仕事と学業を両立し、二足のわらじを履きながら、一歩一歩経験を積み重ねてきました。

そんな日々の中で出会った仲間や教師の存在は、かけがえのない宝であり、数々の挑戦を乗り越える支えとなりました。互いに感謝の心を育みながら、決して平坦ではなかった四年間をやり抜いたことは、皆さんの誇りであり、長い人生を支える確かな土台となります。

これから先の人生も新たな目的地へと続く旅（冒険）です。ぜひ自分らしく「前へ」、日々を楽しみながら歩んでほしいと思います。道に迷うこと、思い通りに進まないこともあるでしょう。そんなときこそ、これまでの旅路を思い出し、自分の可能性を信じてください。

そして未来に向かって、力強く歩み続けてください。皆さんの前途が、希望に満ちた輝かしいものとなることを心から願い、応援しています。

定時制教頭　古川　小百合

ご卒業おめでとうございます。

みなさんが本校定時制で過ごした日々は、決して平坦な道ではなかったかもしれません。「働きながら学ぶ」ことの大変さは、経験したみなさんが一番実感していることと思います。みなさんの職場を訪れ、ひたむきに働く姿を目にしていつも胸が熱くなりました。学業と仕事を両立させることは、強い意志と努力なしにはできないことです。この経験は、これからの人生において大きな力となることでしょう。また、私が本校に赴任して間もない頃、最初に声をかけてくれたのが４年生のみなさんでした。「学校には慣れましたか」。何気ない一言だったかもしれませんが、みなさんに迎え入れてもらえたように感じ、緊張が和らいだことを覚えています。

卒業は新たなスタートです。これからの人生を自分らしく、充実したものにしていけるよう、心から応援しています。これまで支えてくださった家族や先生方への感謝を忘れず、新しい未来へと羽ばたいてください。

二十四の瞳へ

四年担任　長田　明子

わたしは、働きながら学ぶ高校生活にずっと憧れを持っていました。東西を分かつ壁が、市民の手で倒されるようすを見て、若者と一緒にいることのできる仕事に就きたいと思いました。夢と現実の違いに傷つき、自分の不甲斐なさに落胆しながら、やっと夢の場所にたどり着きました。

悩むことを恐れず、なかまの存在を信じて定時制に集ったみなさんと出会えたことに感謝しています。

卒業おめでとう。

四年副担任　杉原　優輝

ご卒業おめでとうございます。

三年生からの副担任でしたが、皆さんと二年間共に過ごせた日々は、かけがえのない大切なものでした。皆さんは今後、予測不可能な社会に旅立ってゆきます。苦しいこと、辛いことも沢山経験するかもしれません。そんなときは、荒定家族を頼ってください。卒業しても、家族の絆は消えません。いつでも心の支えとして、同級生・教師に相談してください。「人の人生は長く、世界は果てしなく広い。肩の力を抜いていこう」最後に私の座右の銘を贈ります。よき人生を。